

魅力ある箱根ジオパークをめざして

ひらただいじ
平田大二 (学芸員)

箱根をジオパークに！

「箱根の山は天下の険」と唄われた箱根は、風光明媚な景観と湯量豊富な温泉、相模湾の海の幸、そして長い歴史を物語る史跡・名勝も数多くあり、古くから保養地・観光地として知られてきました。現在では毎年3,000万人もの観光客が訪れる、国際的な観光地となっています。

この箱根をジオパークにしよう(図1)と、箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町と、神奈川県、民間事業者、NPO、観光施設などからなる箱根ジオパーク推進協議会によって、2012年の日本ジオパーク認定に向けて取り組みが進められています(箱根ジオパーク推進協議会 <http://www.hakone-geopark.jp/>)。そこで、ここでは箱根のジオパークとしての魅力を紹介いたします。

大地の公園 ジオパーク

ジオパーク(Geopark)とは、「地球」あるいは「大地」を意味するジオ(Geo)と、公園のパーク(park)を結びつけた造語です。地球のさまざまな活動が作り上げた大地の遺産を主な見所とする自然の中の公園のことです。ジオパークは、ユネスコの支援を受けて設立された世界ジオパークネットワーク(GGN)により世界各国で推進されています。日本では日本ジオパークネットワーク(JGN)が組織され、2011年9月現在で20地域が日本ジオパークに認定されています。そのうち5地域は世界ジオパークとしても認定されています(JGN <http://www.geopark.jp/>)。

箱根の魅力、再発見！！

箱根の北には丹沢山地、南には伊豆半島があり、豊かな自然が続いています。また、箱根を通る東海道は古代から東と西の文化をつないできました。箱根ジオパーク構想のメインテーマは、「北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち」です。自然と歴史の交差点である箱根の魅力、再発見してみましょう。

- ・プレート境界：箱根は、海のプレートであるフィリピン海プレートと、陸のプレートである北米プレートとの境界域に



図1 箱根ジオパーク構想エリア(神奈川県箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町)。

あります。二つのプレート動きが、この地域を活動的な大地としています。

- ・箱根火山：広い裾野をもつ外輪山、外輪山の内側にできたカルデラ地形と芦ノ湖、そして数多くの中央火口丘。箱根火山は65万年におよぶ活動のなかで、各種の溶岩・火山灰などの火山噴出物を吹き出し、多様な火山地形を生み出してきました。まさしく「火山の博物館」です。
- ・火山の恵み：火山の恵みである温泉は、豊富な湯量と多様な泉質を誇り、歴史的にも由緒ある温泉地となっています。
- ・起伏に富んだ地形と温暖な気候：相模湾に面する海岸線から箱根火山最高峰の神山1,438mまでの起伏に富んだ大地の中に、温暖な気候に生活する様々な動植物が生息しています。
- ・長い歴史：旧石器時代や縄文・弥生時代等の古代の人々の営みからはじまり、中世の源平合戦や曾我物語の舞台、戦国時代の北条氏による統治と豊臣氏の小田原攻め、江戸時代の城下町や東海道の宿場や関所、明治以降の保養地としてなど、長い歴史が残されてきた地域です。
- ・良質な石材：箱根火山の溶岩が良質な石材として小田原城や江戸城の石垣にも使われ、同時に高い石工技術を持つ石工も育みました。良質な石材と高い技術は、小松石などに代表される地

域の工芸品を生み出し、本地域における重要な産業の一つとなっています。

- ・多種多様な施設：当博物館や神奈川県温泉地学研究所をはじめ、小田原城天守閣・歴史見聞館、小田原市郷土文化館、箱根湿生花園、箱根関所資料館、箱根町立郷土資料館、湯河原町立湯河原美術館、真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町立民俗資料館など、多種多様な博物館、美術館、研究機関が充実しています。
 - ・整備された交通機関：首都圏から近く、訪れるための公共交通機関をはじめ、地域内を移動するためのバス、ケーブルカー、ロープウェイ、遊覧船といった交通機関も充実しています。もちろん、自動車道も整備されています。
- 箱根ジオパーク推進協議会では、箱根地域の地質・地形に限らず、動植物や歴史・文化などの恵まれた資源を維持保全し、その価値を継続して高めていくことをめざしています。また、国立公園・県立自然公園を中心とした区域であることを踏まえ、自然環境の保全を前提とした環境整備も進めていきます。そのためには、箱根の魅力を再認識し、箱根を誇ることができる教育活動が大切です。ジオパーク活動という新たな視点により、地域の持続可能な活性化を図ることが目的とされています。



図2 ジオサイト 箱根大涌谷(箱根町提供).
箱根の魅力を体感できる個性豊かなジオサイト

ジオサイトとは、ジオパークの魅力を体感できる見所のことです。地質や地形、動植物、古代から現在までの人間の歴史や産業などの貴重な見所が、ジオサイトとして選定されます。箱根ジオパーク構想でも、箱根、小田原、真鶴、湯河原の各エリアに、個性豊かなジオサイトが選ばれつつあります。

箱根エリアには、箱根火山の地形と地質、動物や植物、そして温泉を楽しむジオサイトがあります。箱根外輪山の嶺となる大観山や金時山、カルデラの中にそびえる駒ヶ岳や神山、神山の山体崩壊によりできた芦ノ湖や仙石原湿原、噴気活動が続く大涌谷(図2)や早雲山、湧水がつくる飛龍の滝や玉簾の滝、奈良時代から伝わる芦の湯、太閤が使ったと伝わる岩風呂がある蛇骨溪谷、歴史を物語る元箱根石仏群や箱根神社、箱根の山々につくられた鷹ノ巣城・塔ノ峰城・湯坂城などの北条氏城郭ネットワーク、東海道の箱根関所や石畳などがあります。

小田原エリアには、縄文時代の遺跡である羽根尾貝塚、戦国時代から江戸時代の歴史を物語る小田原城(図3)や石垣山一夜城、小田原城や江戸城の石垣の産地となった早川石丁場、江戸時代後期の土木遺産である荻窪用水、大正関東地震の災害の跡を残す根府川(片浦海岸)などがあります。

真鶴エリアには、相模湾についでた真



図3 ジオサイト 小田原城(小田原市提供).
鶴半島の先端にある三ツ石(図4)、真鶴半島をつくる溶岩と溶岩を切り出した石工のまちである岩海岸、889年に創建された貴船神社、源頼朝が隠れたしとどの窟などがあります。

湯河原エリアには、箱根外輪山の一つであり梅林公園のある幕山、箱根外輪山や真鶴半島などを遠望できる南郷山、やはり源頼朝が隠れたといわれるしとどの窟、土肥一族の石塔がある城願寺、湯河原沸石が発見された不動の滝(図4)、溶岩や火山灰が観察できる福浦カツラゴ海岸、万葉集にも歌われた湯河原温泉などがあります。

箱根らしいジオパークを目指して

ジオパークの活動には、教育、観光、地域振興、そして防災があげられています。

地域の総合的な学習の場を創出する教育は、ジオパーク活動の基盤です。地域の自然と歴史・文化について理解を深め、地域への愛着や自然保護、安全に暮らせる環境への関心を高めることが大切です。箱根の大きな経済基盤は観光です。箱根の自然と歴史・文化の再発見が促されるとともに、観光産業の振興と住民参加型の地域振興が推進されます。多様な興味や関心を持つ人々が満足する資源を発掘・提供し、名産品、ガイドブックなどの、開発・販売促進により、地域振興が図られます。そして、さらに重要な取り組みとなってきたのが、防災です。プレート境界域と



図5 ジオサイト 湯河原不動の滝(神奈川県温泉地学研究所提供).

いう大地の変動帯に位置する日本列島で暮らしていくためには、自然の恩恵だけでなく、火山噴火や地震、台風など自然災害への対応を心掛けていかなければなりません。私たちは過去の災害を知り、現在の災害に学び、将来の災害への備えにつながることが大切です。

企画展・巡回展「箱根ジオパークをめざして 箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見」

箱根ジオパークの魅力を知ってもらうための展示活動として、企画展・巡回展「箱根ジオパークをめざして 箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見」を開催します。2011年12月からはじまる当博物館企画展を皮切りに、2012年9月まで真鶴町地域情報センター、ケーブル真鶴、湯河原町立図書館、湯河原町役場住民ホール、小田原市郷土文化館、箱根町立郷土資料館の6施設にて開催します。地域住民はもちろん観光客にも箱根ジオパークの活動について知っていただき、理解してもらい、一緒に活動していただくことが目的です。

ジオパーク活動は、地域の人たちが地域の自然と歴史・文化を再確認し、郷土に愛着と誇りをもち、持続可能な活性化を図ることです。つまり、主役は箱根地域に生活し、活動する人たちです。「地域の人、地域の人による、地域の人と利用者のための魅力ある箱根ジオパーク」となることを期待しています。



図4 ジオサイト 真鶴半島三ツ石(真鶴町提供).